

学校教育において「個別最適学び」という考え方が全国的に展開されつつあることに前回言及した。その背景には「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」と題した答申が、2021年に文部科学省より公表されたことがある。一斉指導（同じ場

所・時間・学習内容）という曰本の教育スタイルにおいて、個別最適学びを同時に実現するという、一見相反する二つの条件をクリアする指導方法は、実は、一部の地域、先生方においては何十年も前から先行的

子どもの学び×企業のこれから

子どもの育ちと学び(4)

った状況が実現された今、デジタルツールを「文房具の一つ」として捉え、子どもたちが自由な発想で活用できる環境づくり・授業づくりをしようという意識が浸透しつつある。効率化・自動化されたデジタル学習のような使い方にとどまらず、例えば、美

た状況が実現された今、デジタルツールを「文房具の一つ」として捉え、子どもたちが自由な発想で活用できる環境づくり・授業づくりをしようという意識が浸透しつつある。効率化・自動化されたデジタル学習のような使い方にとどまらず、例えば、美



た状況が実現された今、デジタルツールを「文房具の一つ」として捉え、子どもたちが自由な発想で活用できる環境づくり・授業づくりをしようという意識が浸透しつつある。効率化・自動化されたデジタル学習のような使い方にとどまらず、例えば、美

た状況が実現された今、デジタルツールを「文房具の一つ」として捉え、子どもたちが自由な発想で活用できる環境づくり・授業づくりをしようという意識が浸透しつつある。効率化・自動化されたデジタル学習のような使い方にとどまらず、例えば、美

しいと思っ

たものを端

末のカメラ

で撮ったり、

ウェブ調査を

通じてニッチな情報にたど

り着いたり、画像、イラスト

ト、グラフを用いて時に手

書きも混ぜつつフルカラー

でノートをとったりでき

そのようなことが教室でできる環境下、個別最適な学びを進めるためには、子どもたちそれぞれが終始個人戦のように学びを行うのではなく、友達、指導者、地域社会人、先哲等の他者と、リアルタイム、非リアルタイムを問わず交わり、ポジティブな意味で予期せ

る。こうした先生方にとっでかゆいところに手が届いたと感じてもらえそうな、個別最適学びという文脈で企業にしかできない関わり方はどのようなものだろうか。あまたのアプローチが考えられるものの、例えば、①自社保有のデジタルコ

(毎週木曜日に掲載)

